

## 窓

福島県教育センター

「窓」に寄せる思い

「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」  
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

## 「教育センターを活用してください」

部長 吉田 豊彦

『教育は未来への投資である』と言われる。

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による困難な状況の中で、先生方は、教育の機会を確保し生きる力をはぐくむことに全力で取り組んでいる。また、震災後の特殊な状況下にある本県では、福島の未来を託す子どもたちのための「学」が必要であろうとも言われる。県内の大学等はコンソーシアムを結成し「福島学」の名称を使い連携している。これは震災前の話。大学との連携による包括的な「福島学」の構築が望まれる。その柱は、例えば次のようなものになる。

原子力の利用とリスクを含めたエネルギー問題全体について、主体的に考え判断できる能力を育成する「エネルギー教育」、放射線の生物学を含め、生涯にわたって健康な生活を送るための判断力と実践力を養う「健康教育」、様々な災害から命を守るための「防災教育」。私はこれらに「福島誌」を加えたい。福島の自然・歴史・人・産業等に関する総合的な知を子どもたちに伝えていくことである。

先生方は、それぞれの場で実践を始めているであろう。それらの英知を結集させたい。

このような思いは思いとして、「児童生徒の確かな学力」を保障する重要性は変わらない。教育センターは、FKSという重要な業務に加え、三つの役割を担っている。まず、次年度の研修を紹介する。

基本研修は、採用がなかった小・中学校初任者と新規採用養護教諭の研修を除き、繰り越しとなっていた学校栄養職員経験者研修Ⅰ、養護教諭経験者研修Ⅲを含めて、すべての研修を実施する。

職能研修については、平成23年度に立ち上げ、震災により実施できなかった「教頭のためのマネジメ

ント講座」を行う。また、小・中・高等学校の「2年次教員指導の実践講座」を新設した。生徒指導・学級経営、教科指導等について研鑽を深めてもらい、平成23年度の初任者研修を補完する。

専門研修は、教科30講座、教育相談3講座、情報7講座、道徳1講座の計41講座に増える。その他、美術関係の土曜講座や子どものためのロボット講座を実施する。授業、教育相談の手法を生かした生徒指導、ICT活用等についてレベルアップを図りたいという教職員の皆さんの思いに添えていきたい。

教育センターの業務の二つめの役割は、今日的な教育課題に対応した調査研究である。今年度の成果は、長期研究員による個人研究の成果を含めて、『研究紀要』等によりお送りするので活用いただきたい。次年度は引き続き、『活用力を高める学習指導』『グループウェア活用による校務の情報化』『児童生徒を支援する力を高める校内研修』の三つの課題についてグループ研究を行う。11月29日（木）に予定している『福島県教育研究発表会』において、県内の優れた教育実践と併せて発表するので、多くの教職員の皆さんにご来場願えれば幸いである。

カリキュラムセンター機能は、教育センターが提供する三つめの役割で、今年度好評であった出前講座を平成24年度も開設する予定である。小学校理科実験、言語活動、校内研修の進め方や情報教育、教育相談関係のメニューを用意した。その他のテーマについても、可能な範囲で相談に応じていく。

平成24年度、教育センターは、専門研修の1000名を含め、延べ2700名の教職員の皆さんをお迎えし、また、皆さんのところに向いていく。

子どもたちの未来のために教育センターを活用してください。

○既刊誌についての情報を所報ふくしま「窓」Web版に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

○同誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行	： 福島県教育センター	〒960-0101	福島市瀬上町字五月田16番地
TEL	024-553-3141	(代表)	FAX 024-554-1588
URL	http://www.center.fks.ed.jp/		E-mail center-kikaku@center.fks.ed.jp

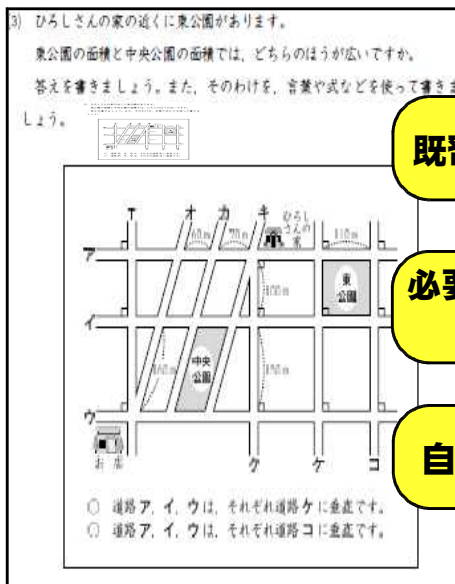
# 「活用力」を高める学習指導の在り方

本教育センターでは、平成23年度より「「活用力」を高める学習指導の在り方」をテーマに設定し、研究を進めています。そして、今年度は「算数・数学科」を研究教科として、理論と授業実践（研究協力校）の両面から研究を進めてきました。ここでは、「活用力」を高めるポイント等について紹介します。なお、詳しくは「平成23年度研究紀要 vol. 41」（2012.3）をご覧ください。

## 1 「活用力」とは

端的に言えば、「**※既習事項を用いて考え、根拠をもとに必要な情報や事柄を判断したり選択したりし、自分の思いや考えを表現する力**」です。つまり「活用力」は、「思考力・判断力・表現力」とほぼ同義と考えています。

平成19年度に実施された全国学力・学習状況調査A・B問題（算数科）を例に見てみましょう。



このような問題に出会った児童は、以下のようなプロセスを経て、問題を解決していくのではないのでしょうか。

既習事項を用いて考える

- 長方形、平行四辺形の特徴・性質
- 面積の概念・公式

思考

必要な情報や事柄を判断・選択する

- 求積のために必要な長さ
- 底辺と高さの位置関係

判断

自分の考えを表現する

- 面積の概念・公式
- 面積の大小比較

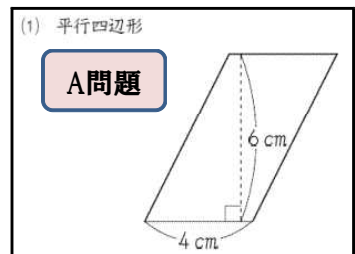
表現

このように、未知の問題に対して、今までに身に付けてきた知識・技能、数学的な見方や考え方と与えられた条件を照らし合わせ、必要な情報を選択し、その情報をもとに言葉や式などを使って論理的に説明できることが求められているのです。これらの力を「活用力」としたのです。

また、上のB問題の福島県の正答率は、**16.3%**でした。一方で、下に示すA問題において出題された「底辺」と「高さ」が指定された平行四辺形の面積を求める問題の正答率は、**97.9%**でした。つまり、A問題の正答率からは、平行四辺形の面積の公式に関する知識の定着は図られていると言えます。

しかし、このようなB問題では、2つの公園の形を既習の図形と照らし合わせ、その図形の面積を求めるための必要な数値を自ら読み取らなくてはなりません。そして、2つの公園の面積を比較し、言葉や式を用いながら説明しなくてはならないのです。単なる面積の公式の適用だけでは、B問題を解決することができないのです。

このようなことから、福島県の算数科における課題は、「「活用力」の育成」と言えます。そのためには、日々の授業において、児童生徒が思考・判断・表現する場を設定し、その姿を見取り、称賛していく授業の展開が必要なのです。



※既習事項：知識・技能、見方や考え方、学習・生活経験等

## ② 「活用力」を高めるためには

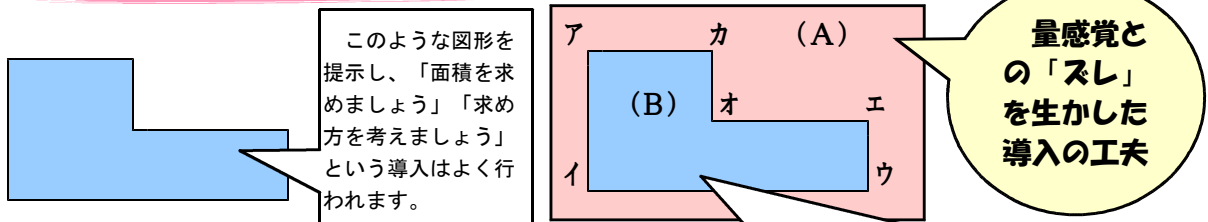
活用力を高めるために、次の3つのポイントを参考に、日々の授業を見つめ直してみましょう。

### ポイント① 知的好奇心を高めよう！（主体的な姿を引き出す）

児童生徒に数学的な思考力・表現力をはぐくむためには、授業の導入場面において、「今日の学習は面白そうだ！」「どうすれば解決できるのかな。やってみたい！」などといった、児童生徒の追究意欲を高めなくてはなりません。そのためには、児童生徒の主体的な姿を引き出そうとする教師の構えと具体的な手立てが必要です。次のような、「ズレ」を意識した導入で、児童生徒が、自ら動き出したくなる場を設定していきましょう。

- ☆ 予想とのズレ
- ☆ 既習内容とのズレ
- ☆ 感覚とのズレ
- ☆ イメージとのズレ
- ☆ 生活経験とのズレ
- 等

<例> 小学校第4学年：複合図形の面積



「赤(A)と青(B)の面積はどちらが広いかな」という発問から、「Aが広いと思うな」「いやBだよ」などという子どもたちのつぶやきを引き出します。そして、それらを学級全体に広げることで、「どちらが広いかはっきりさせたい！」「青の面積を求めれば分かるよ！」というつぶやきや意欲的に働きかける姿を引き出すことができるのではないのでしょうか。

ちなみに、画用紙(A)は、縦8cm横11cm、L字型(B)は、アイ=6、イウ=9、ウエ=4、エオ=5、オカ=2、カア=4(すべて単位はcm)に設定すると、赤(A)の面積=青(B)の面積となります。

### ポイント② 思考過程の共有化を図ろう！（共有と吟味）

自分の考えを話したり、ノートに書いたりすることで、考えが整理されたり理解できていないことに気付いたりするものです。また、他者の考えに触れることで、自他のよさを感じながら学習を進めることもできます。そのためには、結果の共有だけではなく、思考過程の共有化を重視し、考えを伝え合ったり高め合ったりする楽しさを感じることができる授業展開が不可欠です。

そこで、思考過程の共有化を図る際には、以下のような発問により活動を仕組み、数学的な見方や考え方、そして、共感的な態度をはぐくんでいきましょう。

- ☆ 予想活動 「～さんの式(図)の意味が分かるかな」「～さんの考えの続きが言えるかな」
- ☆ 再生活動 「～さんの説明をもう一度言えるかな」
- ☆ 補助活動 「～さんの考えのヒントが言えるかな」
- ☆ 換言活動 「～さんの考えを、別の例でも言えるかな」
- ☆ 要約活動 「～さんの考えを簡単に言えるかな」「～さんの考えは、つまりどういうことかな」等

上記のような活動を取り入れる際は、形式的なものにならないようにしたいものです。子どもの「考えたい！」「伝えたい！」という思いを引き出す視点も、大切にしていきたいです。

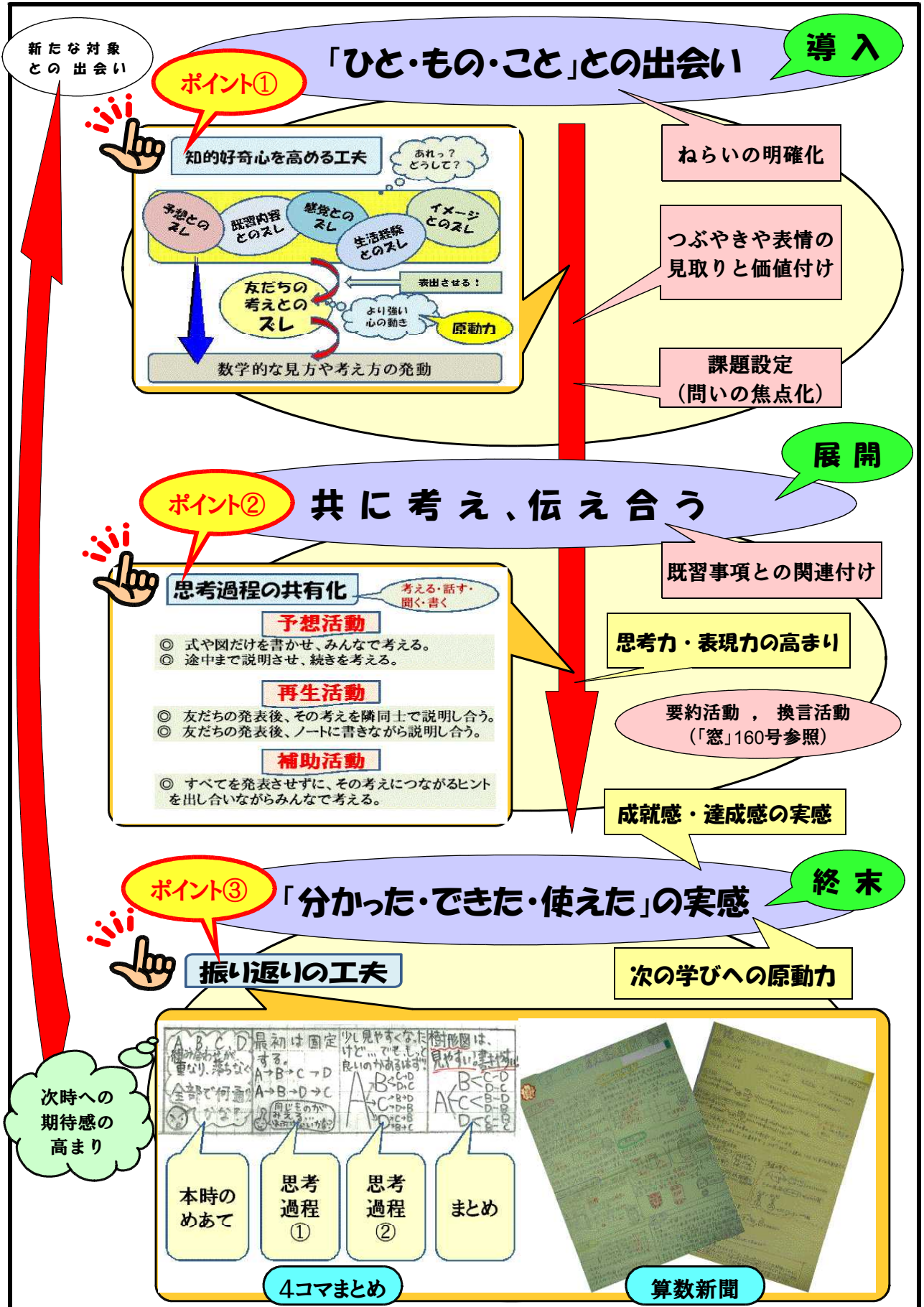
### ポイント③ 振り返りを充実させよう！（知識・技能の定着） （考え方の育成）

学習したことを振り返ってまとめると、学習内容が明確になるとともに、新たな課題も見えてきます。そして、まとめたことは、今後の学習の思考を助けたり促したりすることにもつながります。

そのためにも、言葉・数・式・表・グラフなどを用いて表現する学習活動の工夫やそれらを単元計画に意図的・計画的に位置付けていくことが大切です。

### 3 授業改善のポイントと授業イメージ

3つのポイントと授業イメージを重ね合わせました。授業づくりの参考にしてください。



□■教育相談チームからの発信■□

# 児童生徒を支援する力を高める 校内研修について

教育相談チームでは、児童生徒を支援する力を高める校内研修の研究を行い実践資料を作成しています。

教育相談チーム  
ジュンイチ先生

『児童生徒を支援する力』とはなんですか？

どうして『校内研修』  
なんですか？

A小学校：生徒指導担当  
ユウコ先生

## 『児童生徒を支援する力』とは？

- 個人として身に付けたい力  
児童生徒を理解し、問題へ対応する力と  
人間関係を築く力
- 組織として身に付けたい力  
職場の中で互いに認め合い協力し合う力

## なぜ『校内研修』なのか？

校内研修は、教員個々の力量向上と  
教員集団の組織力向上の機能を併せ持っている

具体的にどんな  
研修なのか教えて  
ください。

それでは、校内  
研修を一緒に体験  
してみましょう！

●月★日 ▲曜日 日直（トシオ・カズコ）

## 校内研修：1 「保護者との相談面接」

### はじめに 「ミニエクササイズ」

- ・後出して負けるジャンケン  
例) 司会者が(グー)を出したら、研修者はそれを見た後で(チョキ)を出して負ける。

### 説明 「相談面接の基礎・基本」 「保護者との相談面接」

- ・相談面接を進めるための基本事項を理解する。
- ・基本的な技法を確認する。
- ・保護者との相談面接の進め方と留意点を理解する。

### 演習 「保護者との相談面接演習」

#### ・電話での相談「登校しぶりの児童の母親と」

班ごとに児童や母親の心情、クラスや登校しぶりの背景を想定し、①ロールプレイ、②グループ内での振り返り、③全体での意見の共有を一巡とし、教師・保護者・観察者のすべての役割に取り組む。



自分の電話相談の  
仕方の癖に気付く  
ことができる

#### ・来校した保護者との面談 「いじめ被害を訴える父親と」



学級担任役と学年主任役のペア対応で、電話相談時と同様、保護者・学級担任・学年主任のすべての役割に取り組む。

チームで対応することで安心感を持ちながら相談することができる

### まとめ 「演習の振り返り」

- ・自己の相談面接を振り返り、対応の仕方について反省や修正を行う。

思わずジャンケンに勝ってしまいました。難しいなあ…。



A小学校同僚  
マサコ先生  
研修を一緒に体験  
してくれました！

だれでも相手に「勝とう」という固定された意識を持っています。  
保護者との面接では「相談面接＝指導助言」という意識を変えてみましょう！

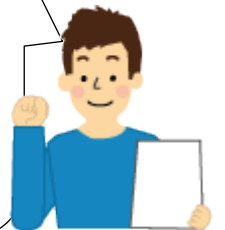
保護者との相談面接では、協力関係を作ることが肝心です。そのために肯定的なメッセージを伝えていきましょう。  
『説明』の次は、いよいよ『演習』です！



相手の心を開くような対応の仕方の大切さや、保護者は「話をしたい」「話を聴いて欲しい」という気持ちを持っていることに気付きました！

保護者の方に対応するとき、ペアで対応するなど、他の先生方の協力を得られると安心して相談できますね。

先生方は保護者の立場を演じることによって、保護者の気持ちを理解し、保護者の思いや願いに気付くことができました。  
また、先生方は演習を通して支え合う関係を体験し、複数対応の相談面接の効果を実感することができました。



## 校内研修：2 「事例研究」

**はじめに 「ミニエクササイズ」**

・がんばりを認め合う

**説明 「インシデント・プロセス事例研究法の特徴・事例提供・進め方の説明」**

・情報収集し、具体的な指導援助策を考える。  
 ・事例の記載内容（指導経過は記載しない）。  
 ・概要・時間配分・記録用紙等。

**演習 「インシデント・プロセス事例研究」**

・事例の提示と情報収集  
 事例提供者の先生が事例を読み上げる。  
 参加者の先生方が問題の理解に必要な質問を考え、一人ずつ質問する。

・個人研究  
 個人で、事例の何が問題なのかを考え、事例提供者の立場で対応策を付箋紙に書き込む。

・グループ研究  
 学年を中心としたグループで、個人の指導援助策を発表し、グループとしての具体的な援助策の検討を行う。

一人ずつ、記録用紙に付箋を貼り付けながら、問題点と具体策を発表する。

・全体研究  
 各グループから、問題点と具体策の発表を行い、指導援助策をよりよいものにするように意見交換を行う。

**まとめ 「演習の振り返り」**

・自分の児童理解や指導援助について振り返りを行う。

事例は概略のみを書いた10行程度の簡易なもの（インシデント）を準備します。  
 質問は「端的な質問をし」「どんな指導援助をしたかは問わない」ようにします。受け答えは「聞かれたことだけに答える」ようにします。  
 収集した情報から、「いつ・だれが・どこで・何を」という具体的な指導援助策を考えてみましょう。

問題点	指導援助の方向性・具体策
仲の良い友達はいろのかな？	構成的グループエンカウンターを実践する
家庭環境はどうなのかな？	前学級担任に様子を聞く
学習に遅れはないのかな？	



一人では解決しないようなことも、みんなの力を借りれば解決できますね。

児童に関するたくさんの情報を収集することで、児童を見る視点が広がり、様々な視点から指導援助の方法を考えることができました。



先生方は演習を通して、様々な視点から児童理解を行い、指導援助策を考えることができました。インシデント・プロセス事例研究法について、実感を持って理解を深めていました。  
 また、先生方は同僚としての意識や協働する重要性を再確認し、チームワークの大切さを実感していました。

## ☆ 校内研修を実践するには？ ☆



学校でも生徒指導の校内研修を  
実践したいのですが、だれでもう  
まく進行できますか？  
専門知識がないと難しそう…。

教育相談チームで作成している『児童生徒を支援する力を高める校内研修実践資料』は、研究協力校で実践し、先生方が使いやすいものになるように改善を図っています。  
 ホームページに掲載する予定ですので、ダウンロードして各学校の『校内研修』で活用してください。

平成24年度は小学校版、  
25年度は中学校版、26年度  
は高等学校版の実践資料を  
開発する予定です。



これから各学校での『校内研修』に活用してください。不明な点はいつでもご質問ください。

福島県教育センター  
教育相談チーム

☎024-553-3141

いろいろと参考になりました。  
出来上がったら私の学校でも活用したいと思います。



# ～ 実践に役立つ教育資料のご紹介～

[http://www.cms-center.gr.fks.ed.jp/index.php?page\\_id=1184&\\_layoutmode=on](http://www.cms-center.gr.fks.ed.jp/index.php?page_id=1184&_layoutmode=on)

## ◆理数教育に関連する資料◆

『中学校理科における言語活動の充実をめざして—科学的思考力を高めるために表現活動を重視した学習モデルの提示—』（平成22年度研究紀要 京都市教育委員会・京都市総合教育センター 2011年3月）

中学校の理科の授業において、「書く」、「交流する」といった言語活動を繰り返し行い、習得した知識や技能を活用することによって、科学的思考力を高めることができるような学習モデルを紹介しています。

教育センター「図書資料室」蔵書の中から、近年発行されたおすすめのエデュケーション資料をご紹介します。貸し出しもしておりますので、どうぞご利用ください！



## ◆活用力に関連する資料◆

### 『教育デザイン研究』第2号

（横浜国立大学 教育デザインセンター 2011年3月）

佐伯胖・安彦忠彦・佐藤学など著名な先生方による先駆的な講演記録や、府川源一郎先生による『「教育デザイン」構築の基盤』という論文など、これからの教育をデザイン・改革するための方向性について提案がされています。金馬国晴先生による「活用」と習得・探求との関係性を考察した論文も紹介されています。

## ◆特別支援に関連する資料◆

### 『通常の学級における特別な教育的ニーズのある子どもへの支援』

（ガイドブック 千葉県総合教育センター 2010年3月）

適切な教育的支援のスタートは、児童生徒の出す様々なサインに対する担任の気付きとその児童生徒の困難さ等の把握です。多くの実践例を通し、具体的な児童生徒の実態に応じた教師のかかわり方や対応の工夫等を紹介しています。

## ◆外国語活動に関連する資料◆

### 『ラララ♪ Learning English

#### ～英語活動Q & A～

（平成21年度研究紀要第83集 厚木市教育研究所 2012年7月）

平成23年度から完全実施される外国語活動のスムーズな導入に向けて、担任の先生方が、子どもたちとともに楽しみながら英語に親しむことができるよう、授業実践等を行う上での具体的なアイデアが紹介されています。

○ 「教育資料」、「教育図書」は、最大5冊まで2週間貸し出しいたします。

○ 右上のアドレスからその他の資料を検索することも可能です。

カリキュラム全般に関する相談を受け付けています！

## カリキュラムセンター事業のご案内

教育センターでは、先生方個人そして学校単位での支援と援助として、次のようなカリキュラムコンサルティングを行っています。

- ・ 教育課程・教科指導に関すること
- ・ 授業構想(単元構成・授業展開)に関すること
- ・ 具体的な指導方法に関すること
- ・ 教材・教具に関すること

### 1 教員研修の支援（小・中・高等学校等への積極的な支援を進めます）

- 学校、教育委員会、各種研究団体へ指導主事を派遣します。
- テレビ会議システムを活用した校内研修を支援します。

### 2 カリキュラムに関する情報・資料の収集と提供（カリキュラム関連情報を幅広く収集・提供します）

### 3 Webを通じた教育資料・情報の提供（関係機関等とのネットワークを広げ、教育情報を提供します）

- 教育センターWebで授業づくりをサポートします。
- 聴講講座一覧等の情報提供と研修の継続支援を行います。



カリキュラムセンター講師派遣より

平成24年度は相談室を本センターの第1棟1階に設置します。電話や来所、研修の合間に来室しての相談をお待ちしています。

お問い合わせ先 ■ 福島県教育センター総合企画チーム TEL024-553-3193 E-mail center-kikaku@center.fks.ed.jp